

セミナー「ボルネオの熱帯雨林を蝕むプランテーション開発  
～インドネシアとマレーシア・サラワク州での事例」



消えゆくオランウータン  
タンジュン・プティン国立公園  
周辺地域での違法な農園開発

ウータン・森と生活を考える会  
事務局長  
石崎 雄一郎

ウータン・森と生活を考える会について



1988年に設立  
大阪を拠点に、25年間市民の  
力で続いているNGO

ボルネオ島など主に東南アジ  
アに広がる熱帯林を守るため  
に活動している団体

ボルネオ島とは・・・



インドネシア、マレーシア、ブルネイの3カ国からなる  
日本から約7時間 日本の2倍の面積の島

生物多様性の宝庫



気候変動に大影響

破壊の進む熱帯雨林



商業伐採(パルプ、木材)  
マイニング(石炭、金、シリコン)  
アブラヤシプランテーション開発(パーム油)

ボルネオ熱帯雨林破壊の大きな原因



世界で一番生産されている植物油＝パーム油

ポテトチップス、インスタント麺、チョコレート  
アイスクリーム、マーガリン、菓子パン、  
洗剤、石鹼、化粧品、バイオディーゼル





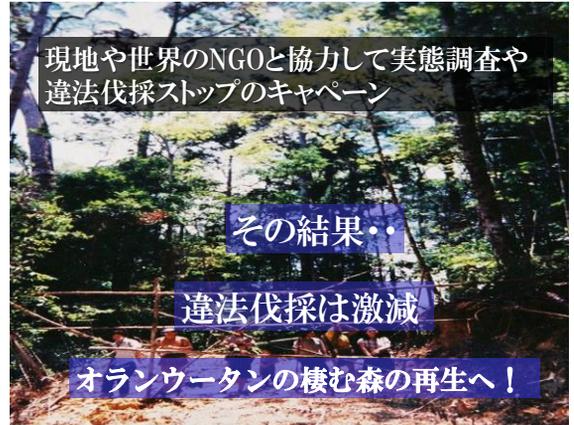
伐採や乱開発が、生態系の破壊や現地の人々の暮らしを脅かしている。先住民の「森をきらないで」という声に応え、ウータンは活動を始めました。



日本国内で熱帯材がどんなものに使われているか、どこで販売されているかなどの調査



国内の環境団体と協力して、熱帯材を使わないよう国際会議・政府・自治体・企業に働きかけ



現地や世界のNGOと協力して実態調査や違法伐採ストップのキャンペーン

その結果・・・

違法伐採は激減

オランウータンの棲む森の再生へ！



現地の村人・NGOによる原生種の苗作りや植林を支援



現地の村の子どもたちと環境教育



日本からのエコツアー  
 現地の住民と交流やホームステイ



苗作りグループは組合として収入を分配  
 主体的に活動は発展、広がりを見せた矢先



パーム油の  
 プランテーションの波が  
 この地にも及んできた

プランテーション会社が新たな開発を計画



苗作りグループメンバーの多くは  
 一転、プランテーション賛成派に



さらに・・・

現存するプランテーションから  
 オランウータンの死体が見つかる

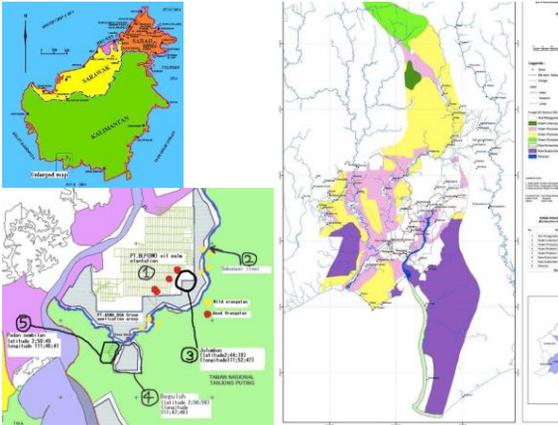




ウータン・森と生活を考える会では、ペティション(要望書)を作成し、インドネシア大統領、林業大臣、林業省の関連機関、REDD+タスクフォース、BUPATI、UNESCO、CBD、ノルウェー政府等に送付し、以下を要求した(2013年7月27日)

1. プランテーション開発を計画しているBGA社へのIUP(開発許可)を取り下げ、今後HGUを与えない
2. 国立公園およびその周辺をHCVF(保護価値の高い森林)として扱う
3. モラトリアムを重視する

この開発の問題点は何か？



タンジュンブテイン国立公園および周辺での開発の問題点

1. この地域の自然の価値ははかりしれないものであり、この開発は生物多様性の精神に反している



タンジュンブテイン国立公園および周辺での開発の問題点

2. ウータンはFNPFと長年の協力により、植林を続けてきた



タンジュンブティン国立公園および周辺での開発の問題点

3. 現存するプランテーションでオランウータンの殺害された死体が見つかっており、今後この付近でプランテーションが作られれば、このような事態が増える可能性は高い



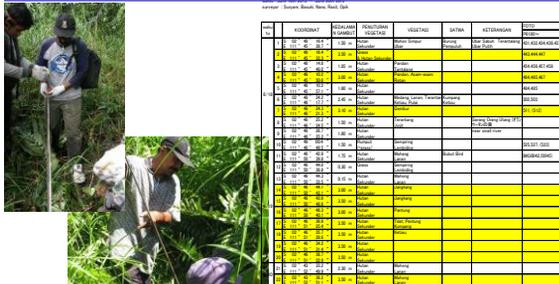
タンジュンブティン国立公園および周辺での開発の問題点

4. BGAの環境アセスメントは不十分である



タンジュンブティン国立公園および周辺での開発の問題点

5. 開発予定地は深さ3M以上の泥炭地を含み、モラトリアム(天然林および泥炭地における新規開発を2年間凍結する大統領令)に違反している



タンジュンブティン国立公園および周辺での開発の問題点

6. BGAは他の地域でも深刻なトラブルをおこしている

中カリマンタン C.O.P(Centre for Orangutan Protection)

西カリマンタン IAR(International Animal Rescue)



ウータン・森と生活を考える会の対策【キャンペーン】

インドネシアNGOと協同で・  
Complaint letterの作成  
および、記者会見

を計画



ウータン・森と生活を考える会の対策【キャンペーン】

計画は進まず・・

原因⇒主体となるNGOの不在

ローカルNGO・FNPF スタッフ能力不足  
リーダーは日常業務に煩忙

他のNGOはそれぞれの業務がある  
住民からの声があがらない

しかしながら、いくつかのNGOはそれぞれ独自の対応策を展開

ウータン・森と生活を考える会の対策【アドボカシー】

Walhi Zenziさん



プランテーション開発が法律や行政手続き上、問題がないかをチェックし、訴えかけていく

5月にジャカルタで話し合い、7月の日本でのFoE主催ワークショップで正式に協力を約束

ウータン・森と生活を考える会の対策【キャンペーン】

500通を超える市民からの署名



- ・ローカルNGO/村人の想い
- ・いままでの植林活動に支援をしてくれ、今回署名してくれた日本の市民の想い
- ・タンジュンブティン国立公園を愛するツールの想い
- ・世界中のオランウータンを愛する人たちの想い



ご清聴ありがとうございました